

平成 27 年度 第 1 回学校協議会

平成 27 年度府立野崎高等学校第 1 回学校協議会議事録

日時：平成 27 年 6 月 17 日(水)

15:20~16:50

於：本校図書室

司会：水元教頭

記録：湯場 真代

山本有希子

渡辺 剛士

【次第】

- 1、校長挨拶
- 2、出席者紹介
- 3、会長選出
- 4、学校より
- 5、協議・意見交換
- 6、会長より

0.司会水元教頭より

- ・資料確認

1.校長挨拶

- ・教頭、首席の人事について
- ・40周年記念年度に際して
- ・学校経営推進費獲得報告 など

2.3.出席者紹介・会長選出：水元教頭

- ・資料名簿による委員紹介
- ・事務局メンバーの自己紹介
- ・協議会会長選出 → 満場一致で、会長：瀬島委員、副会長：鳶岡委員就任

4.学校からの報告

ア、校長から本年度の学校経営計画及び、学校経営推進費について

- ・めざす学校の姿 「一人ひとりを大切にする学校」
- ・3つの重点目標

- ①生徒の自己実現を最大限に支援する学校
- ②すべての生徒が安心・安全に生活できる学校
- ③地域としっかり連携して生徒を育てる学校
- ・今年度の重点課題
 - ①入学者選抜の変更に向けて、更なる広報活動と地域連携の重要性
 - 前・後期制選抜が、普通科は後期一本化へ
 - 内申書が相対評価から絶対評価へ
 - 各学校は求める生徒像を「アドミッションポリシー」として公表する など
 - ②教員研修の充実
 - 初任者・中堅・ベテラン、その時々で教員は学び続けなければならない！
 - ・校内で首席が実施しているフレッシュパーソンズ研修
 - ・教育委員会が主導するミドルリーダーを育成する育成支援事業研修の参加
 - ・国が実施する指導者養成研修に、教頭が大阪を代表して参加
 - ・外務省が実施する若手教員アメリカ研修に、本校教員が難関をくぐりぬけ選出
 - ③学校経営推進費の活用と授業改善への取り組み
 - ・学校経営推進費による、各HR教室プロジェクターの設置
 - ・いつでも、どこでも勉強できる雰囲気づくりをコンセプトに
 - 進路指導室横の進路閲覧室を温かい開放的な雰囲気にした「オープンラボ」
 - 職員室の横に、すぐに先生に質問できるようなミニ勉強コーナー「ミニサプリ」
 - ・授業力改善に向けたプロジェクトチームの立ち上げ
 - 育成支援事業研修の参加教員から、授業改善に向けた取り組みを引き出す
 - ICT 機器の有効活用に向けた職員研修の実施 など

イ、首席よりカリキュラムについて

- ・教育課程、選択科目の見直し
 - ①旧カリキュラムでは、生徒の興味・関心を高める科目を作っていた
 - 多様な設定科目をつくり、生徒の興味・関心のある科目を選択させた
 - 興味・関心のある科目で生徒の学力をつけ、社会に出てほしい
 - リーマンショック以降、好きな科目だけでは就職戦線に勝ち残れない
 - ②現カリキュラムでの考え方
 - 必修科目の学年配当の見直し、単位数の変更
 - 進学希望、就職希望の生徒双方に、国語力の充実に向け国語の増単位
 - 就職希望の生徒に対して、社会常識身につけさせる科目の設定
 - 実習・演習科目の充実
 - 調べ学習、課題研究の導入、及びプレゼンテーション力、発表形式の授業 など
(就職試験で差が出る面接、自分表現のトレーニングに向けて)

③生徒個々の進路実現に向けた選択科目の設定

→就職希望者だけでなく、進学希望者に向けた授業展開

→卒業する時に、結果が出せる科目選択

→就職・進学した後に「頑張ったらできる！」と自分が思える、人に期待してもらえ
る力を身につけられる科目選択 など

ウ、生徒指導について

・重点目標として

①制服指導

→今年度で新制服が3学年揃うので、学校全体が同一基準で指導できる

→挨拶週間と合わせて服装指導の強化週間を行い、必ず成果が出せる

②規範意識の向上

→ルールを守り、その先のマナーを守り、自分達で考えた行動ができるよう指導する

→校内・校外の巡回を強化

→交通マナーとスマートフォン利用マナー指導

③生徒会活動の充実

→野崎レボリューション（学校周辺清掃活動）の定着と充実

→クラブ活動参加率向上に向けた取り組み（2度の体験入部実施）

④遅刻指導について

→月間遅刻指導の規定強化 など

エ、進路指導について

・進路指導部の取り組み

①3年間を見通した計画

→大学、短大、専門学校、地元企業と関わる機会を増やし、進路について考える機会
を繰り返し設定する

→3年生就職希望者には、授業「ビジネス」を選択させる

②進路指導状況

→今春卒業生は進学者が減少、特に大学・短大が減少

→一方で、就職者は増加しここ数年で最高、未定・その他の数も大幅に減少

→未定者18人の内訳は、進学資金が無くアルバイトをする生徒や、芸能関係に進み
たい生徒など、目的がなくフリーターをするという生徒はほとんどいない

③今年度の進路希望

→大学35人、ここ数年でも多い数値

→AO、指定校はもちろん、公募制推薦にチャレンジして、しっかり学力をつけたうえ
で進学を目指したいという生徒が増加

- 就職希望者も増加
- 就職・進学ともに自己実現をサポートできる環境づくりに努める
- 進学希望者に対して、授業や進学補講を通じ確かな力をつけさせて進路実現させる

オ、人権推進委員会より

・人権推進委員会の取り組み

①人権教育の基本方針

- あらゆる教育活動の中で根幹であるという認識で進めている
- 毎週木曜日5・6時間目2時間のLHR・ライフスタディの時間に実施
- 生徒一人ひとりの尊厳を守り、基本的人権を尊重し、様々な人権問題に関する正しい理解を深め、豊かな人権感覚を持って行動できる生徒の育成

②具体的な取り組み

・1年生

- クラス開き、言葉遣いのワーク、ファシリテーションワーク、コンセンサスワーク、人権講演：国際理解・外国人差別問題、在日韓国人・朝鮮人問題 など

・2年生

- デートDVについて、人権講演：国際理解・外国人差別問題 など

・3年生

- 社用紙・統一用紙・違反質問、人権講演：車椅子ダンス 障がい者理解&心のバリアフリー など

③喫近の課題

- ・携帯やスマホに関連したネット上のトラブル事象
 - 危険性についての学習とコミュニケーション力向上のためのワークの実施
- ・外国にルーツを持つ生徒が増加
 - 在日外国人問題についての学習や生徒への支援が必要

④職員研修

- ・第1回職員研修→「在日コリアン問題」最近のヘイトスピーチに関する内容
- ・第2回職員研修→ファシリテーション工房セミナー参加者(若手教員)によるワーク
- ・新転任と経験年数の少ない先生方に対して(教員の人権意識の向上)
 - フレッシュパーソンズ研修による地域の特性や人権教育基礎講座
 - 北条地区・野崎地区フィールドワーク
 - 府立人研などのセミナーへの参加呼びかけ

⑤支援の必要な生徒への支援体制

- ・就学対策委員会(就学に必要な生徒)
 - 特に3年生で障がいのある生徒への進路に対する個別対応(職場体験実習など)
 - 福祉機関と連携(個々のケース会議)

- ・教育相談委員会（相談支援が必要な生徒、問題行動や不登校など）
 - スクールカウンセラーと対応を協議し、相談支援にあたる（年間12日）
 - 毎回、生徒・保護者・教員のカウンセリング予約満杯
 - 有効なアドバイスやカウンセリングを受けた生徒の好転が期待できる
- ・SSW との連携も模索
 - 家庭環境などで進学・就職に向けて支援が必要な生徒へのアプローチ

⑤問題発言事象

- 差別発言などが起こった時の対応 ⇒ 全教員で共有（4月職員会議で確認）
 その場で個別又は、全体に指導（授業を中断してでも）＋本人および関係者呼び出
 ⇒ 人権担当が聞き取り ⇒ 指導 ⇒ 報告書作成 ⇒ 管理職へ連絡
 （事象によっては人権センター等へ連絡するなど地域と連携）
- * 今年度本日までで13件＋α

カ、広報活動について

- ・広報活動の3本柱

①中高大連携

- 中高連絡会、学校説明会や体験入学会、中学校などで行われる学びあいの研修などへの積極的な参加

②情報発信

- 今年度本校 HP をリニューアル、WEB ページ内での積極的な配信活動
- オフィシャルブログのより一層充実
- 積極的な中学訪問

③地域連携

- 学校協議会や里山ボランティア、しじょっこ地域教育協議会などとの連携
- 中学校とのきめ細やかな情報交換
- 卒業後の進学・就職先への積極的な訪問による連携と広報活動

5.協議・意見交換

会長： 一回目の協議会ということで、昨年度の総括でありますとか、現在取り組んでいること、今後の課題等、広範なものですが順不同でご意見いただければと思います。

委員： 野崎高校の里山ボランティアクラブには、学校近くの里山保全活動について取り組んでいただいております。今月の活動では、シイタケ駒菌打ちを体験してもらい、数年前に植え込んで生えてきたシイタケを取り、家に持ち帰って保護者と一緒に食べてもらう自然体験をしてもらっています。

野崎高校の生徒さんはびっくりするほど頑張っていて活動していて、異年齢のクラブ

員とも話をしたり、年配者から話を聞いたりといういい社会体験をしてくれています。自然に入ることにはリスクがありますが、これらを自然学習で体験してもらうのは大切なことですので、ますます野崎高校の生徒会を中心に大いに参加していただけるよう、よろしくお願いします。

委員： 野崎高校全体ですごく工夫され、結果も出てきており本校生徒や保護者も、「野崎高校はいい」という話が多い。

野崎高校に限らず、子どもたちが高校を選ぶときの要因としては、進学実績の面が多く、学力の高い子はもちろん、学力のしんどい子も多いのが事実です。それでも上級学校に行きたいという中学生が多く、野崎高校は今まで就職面で丁寧なご指導をされており、今後は進学面で工夫してもらえたらありがたいです。子どもたちは常に学び続けていたいという気持ちを持っているため、高校を卒業しても次の学校に進んでいきたいという気持ちになるような雰囲気作りや指導もしていただければなと思っています。学力面でしんどい子に対して、授業以外での面でもフォローされる機会を増やして欲しい。

先ほど、中学校訪問という話をさせていただきましたが、私立の高等学校様はかなり早い段階で中学校に来てらっしゃいまして、中には複数回来てらっしゃる学校もあります。ぜひ野崎高校様にも来ていただければと思います。英語科教員の方がアメリカへ留学されるということで、野崎高校には頑張ってもらえるすごい先生がいることを子どもたちに伝えます。そういう先生に出前授業に来ていただいて、「野崎高校ってすごいな！」と生徒が思ってくればすごく有難いです。また、部活指導などで優れた指導をされる先生もいらっしゃると思うので、そういう面でも交流も期待しています。

本中学校では読書好きの生徒が多く、図書館も多くの本を購入して充実させています。一人で年間200～300冊読んでいる生徒も多おり、そういう生徒を表彰しています。保護者の方も子どもを通じて借りたり、直接来て貸し出しをしたりしています。野崎高校の図書館も中学生や地域住民が利用できるような環境があれば、子どもたちの野崎高校に対する興味が一層湧いてくると思います。

会長： 中学校の校長先生からのご意見は貴重だと思います。

委員： 先生の取り組み、すごく頑張られていると思いました。めざす学校像を示されておりますが、次の段階として『生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う』ためには、保護者目線、生徒目線で野崎に入ってよかったと思える具体的な内容を考えていく時期に入ってきていると思います。

たとえば図書館の活用はどうされていますか。私の初任校では利用率が高く、本を読むだけでなく、昼休みに自習で利用する生徒が増えていました。クラブ顧問の先生がテスト期間に図書館で自学自習することを勧めたり、カーペットを敷いて寝ころべるスペースをつくることで、友達とコミュニケーションをとるのが苦手な生徒が、そこを憩いの場として利用できるようになりました。また、生徒が休んだ時のフォローのために、極端ですが授業のビデオを撮って図書館に置いて、自由に見られるようにするなど、休んだ時のフォローを学校がもっと工夫できてば素晴らしいと思います。

人権については、自分の発する言葉が相手をどう傷つけるのか教えることは大事で、コミュニケーション能力をいかにして養えるかではないかと思います。プレゼン力育成の基本は、自分の言いたいことを相手に正確に伝えるかです。現カリキュラムは、3年生でプレゼン力育成を集大成された形だと思います。

生徒指導では、クラブ加入率向上にはクラブ体験2回はいいと思います。他の学校では、学年が上がるごとに減っていきませんが、野崎高校では2・3年で増えていきますよね。クラブ体験を何度かすることで1年生がアップすれば、2・3年ももっと増えるでしょう。

進路未定者が1割になったのがとてもいい数字ですよね。あとはどう進学につなげていくかが大きい課題です。たとえば、先生方だけでなくPTAの方と連携することが大事です。どんな勉強をさせて、どんな進路先になるかということが大事です。

客観的な資料は、やはり数字になってきます。数字が優先するのは良くないが、それをいかにしてうまく使うかだと思います。たとえば、先生方の研修についてです。先生方はとても元気なので、課題の解決は無限にある。課題のマイナス面を解決してプラマイゼロ0で満足せず、野崎高校に沢山あるプラス面をもっと伸ばせば、勝手に解決できる課題もあるので、そちらにも目を向けてほしいなと思います。

委員： 初めて参加させていただき、どのような形で運営されているのか知ることができました。たしかに中学にしても高校にしても、進学というのが子どもたちの目の前にあると思うのですが、高校にしても大学にしても、専門的なことが枝分かれして入ってくるじゃないですか。そのあと将来何をするのかというのを踏まえて指導していくというのは大事だと実感しています。野崎高校で、そういう進路支援で何かもう一つプラスして指導されていくと特色になると思いついてお伺いしました。

会長： 四条中学校から、野崎に来る生徒は何人くらいですか。

委員： 十数人います。

会長： 時間もきましたので、私の方からまとめを。ちょっと難しいお話にもなっていますが、やはり背景になる教育目標というのが大事だと思います。

大学では AO や実業高校からの生徒が入ってきます。もちろん普通校は、進学を目的とした学校ですが、数年前から実業高校から入ってきた学生のほうがよくできます。実業高校の学生は、何か目標を持って入ってきますが、進学校は実は一番漠然としています。高等学校の授業で進学を目的として授業をすると、教科書を使わずプリントの穴埋めをしているのをよく見ます。たしかに試験のことを考えるとそういう形がいいのかもしれませんが、それで知的好奇心が湧くのかという疑問が浮かびます。私が学生たちに望むことは、何かに対する興味関心です。それがあれば、あとは自分で興味を開拓していくはずで、キャリア教育というのは、知的好奇心をちゃんと持たせることが一番大事なことだと思います。

先日、学校授業見学に行った時、先生が「一週間で何があった？」と聞くと、生徒がどんどん発言するんです。今年は全体で10校まわって寝る生徒が少なくなり、元気な挨拶が増え、授業中の挙手が増え、先生が授業をしやすような教室ができてきているというのが感想です。野崎高校でも新しいカリキュラムの成果が出てきていると感じています。